

2018.2

MOVING

ムービング

vol.84



特 集

P2

| 知っていますか?
L G B T
(性的マイノリティ)

CONTENTS

お知らせ

P10

講座・講演会報告

P7

誌上講座「第3回」
男女共同参画の視点から
考える災害と防災／復興

P6

講座報告
働き女子の夢をかなえる
キャリアアップ講座

P4

特集

知っていますか？ LGBT (性的マイノリティ)

★「私は異常だ」と苦悩した中学時代

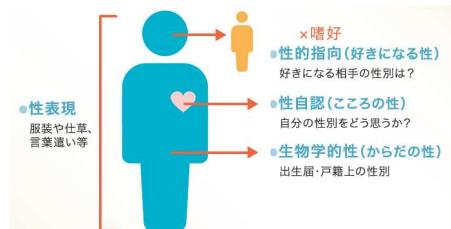
私は周りの子と何か違う。中2の頃、女の子が気になっていた自分に気がついていましたが、それが恋愛感情なのかすら、分かっていませんでした。試しに国語辞典で「同性愛」の項目を見てみたら「異常なこと」と書いてあり、大きな衝撃を受けました。「私は異常なのだ」「誰にも知られてはいけない」と、胸に深刻に思っていました。

混乱する自己を持て余していた高校生の時、母親に「女の子が好きかも」とカミングアウトしました。喉から心臓が飛び出るんじゃないかというくらい緊張しましたが、とにかく誰かに話を聞いて欲しかったのです。その時の母親は「大丈夫。気にすることはないよ」と言ってくれて、私は安堵感と解放感に包まれたことをよく覚えています。その後、父親と2人の姉にも伝えることができ、家族全員、私がレズビアンであることを受け入れています。

★「性」を構成するさまざまな要素

世の中には男性と女性がいて、男性は男性らしく、女性は女性らしく振る舞い、思春期になったら異性を好きになり、結婚し家庭を作ることが、「自然」「当たり前」と大多数の人が考えています。しかし「性」には、人の数だけ多様なバリエーションがあります。これまで、多様な性に関する社会教育の機会はほとんどありませんでしたから、多くの人はそのことをまだ知らないだけかもしれません。

まずは「性」を構成する要素を見てみましょう。今回は、性的指向、性自認、生物学的性、性表現の4つを紹介します。



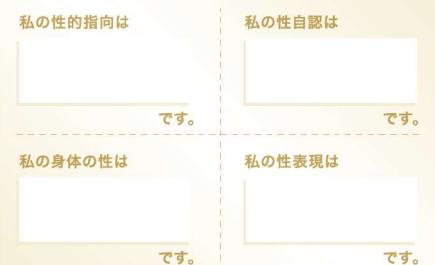
NPO法人
Rainbow Soup 理事長

五十嵐 ゆり さん

2012年より任意団体Rainbow Soupを発足し、当事者としての経験を踏まえた講演・執筆活動を行う。2015年3月にNPO法人化。同年7月、米国国務省主催のLGBTプログラム研修生に選抜。同年10月より、特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ・東京スタッフを兼務し、2017年2月より理事に就任。筑紫女学園大学客員研究員。



一人ひとりの人間の「性」は、この4つの要素が組み合わさっています。異性あるいは同性を好きになる人、どちらの性も好きになる人、また特定の誰かを好きにならない人もいます。自分のことを男性だと思う人や女性だと思う人、また性別を誰かに決められたくないという人もいます。私の場合、性的指向=女性、性自認=女性、生物学的性=女性、性表現=日によって変わることになります。大多数の女性は、性的指向が男性ですので、私は性的指向に関する少数派（マイノリティ）になりますが、それが私にとっては「自然」「当たり前」なのです。皆さんも自分の性の要素について、ここであらためて考えてみてください。それぞれの要素について「100%男性」「80%くらい女性かな」など、ご自身の感覚で自由に記入してみましょう。



★少なくとも20人に1人のLGBT

最近、新聞やテレビなどで「LGBT」という言葉を見聞きする機会が増えてきました。LGBTとは、先ほど紹介した性の要素についての少数派（マイノリティ）であるレズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーというそれぞれの言葉の頭文字をまとめた表現です。性的マイノリティの総称として国際的に使われていますし、異なるマイノリティ同士の連帯を示す言葉でもあります。

性的指向
好きになる相手の性別

性自認
自分の性別の捉え方

LGBT

レズビアン
Lesbian
ゲイ
Gay
バイセクシュアル
Bisexual
トランスジェンダー
Transgender
同性を好きになる女性
同性を好きになる男性
異性を好きになることもあれば
同性を好きになることもある人
出生時に割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人
(性同一性障害者を含む)

★ SOGI(ソジ)=Sexual Orientation(性的指向)、Gender Identity(性自認)の頭文字をとった言葉で、性の多様性を考える概念として国際的に使われています。LGBTとあわせて覚えておきたい言葉です。

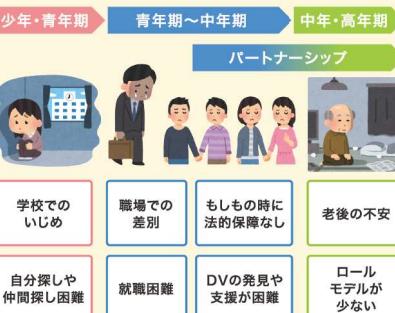
LGBT以外にも、アセクシュアル（他人に恋愛感情を抱かない人）、クエスチョニング（性自認や性的指向が明確ではなく揺れ動いている人）など、さまざまな人がいます。これらは個人の趣味や一過性のものではなく、本人の意思で変えられるものではありません。

日本にLGBTの人たちがどれくらいいるのか、という点については、さまざまな調査結果を踏まえると人口の5～8%と考えられます。仮に5%とするとき、20人に1人という割合になります。北九州市の人口は約100万人ですから、5%で計算すると5万人と推計されます。「私の周りにはいない」と感じる人も多いと思いますが、いじめや偏見を恐れて、周りに伝えることができない人が多く、その存在がほとんど可視化されていないのです。

★世の中の「当たり前」が当事者を苦しめる

「カミングアウトしたら嫌われるのではないか」「ばれたらいじめられる」など、LGBTの人たちの多くは、差別や偏見を経験しています。

LGBTの抱える社会的困難



見の目を恐れて、本当の自分のことを周りに言えない・言わないまま過ごしています。

ある調査ではLGBTの人の約6割がいじめられた経験ありと答えていますし、悩みや不安の解決に役立つ適切な情報にたどり着けず、悩んでいる子どもたちは今もたくさんいます。また、職場で孤立し居場所がなく、離職や転職を繰り返すことで貧困層に陥ってしまう人もいます。自殺念慮が高い層であること、専門家から指摘されています。また長い間、同性パートナーと助け合って暮らしていくても、社会保険や税金、相続などの面で法的保障は一切ないのが、日本の状況です。婚姻平等化や差別を禁止する法整備が急務ですが、法制化の議論はまだこれからです。

性の多様性についての社会教育を受けた経験のない人は、LGBTであることを「わがまま」「一過性のもの」とらえてしまうかもしれません。世界の専門家がなぜLGBTの人が存在するのか調べていますが、結論は出ていませんし、私も自分がなぜレズビアンになったのか分かりません。異性愛の方に「なぜ、いつから異性愛者に？」と尋ねると、皆さん困った顔をします。私も「なぜ同性愛者に？」と言わざると同じように困っています。気がついたらそうだった、とか言いようがないのです。ぜひ皆さんには、LGBTの人たちの困り事に注目をしてほしいと思います。

★「当たり前」を、見直してみませんか

男女の区分や異性愛を「当たり前」として、それ以外の生き方を排除するような社会のままでいいのでしょうか。子どもの頃から戸惑いを抱え、LGBTであることを悟られないよう、本当の自分を隠し、周りに嘘をつき続けなければならぬのは、とてもつらいことです。LGBTの人も含め、誰もが生きやすい社会とはどのようなものか、何をすればよいのか、ぜひ周りの人と一緒に考えてみてください。

そしてもし、「LGBTの人たちを応援したい」「何か力になりたい」という人は、LGBTのシンボルカラーであるレインボーバーを使って、サインを出してみましょう。それは「味方だよ」という意味表示であり、LGBTの人たちはそのサインに気づきます。「この人なら安心してカミングアウトできるかも」「相談できるかも」という人が、周りに1人でもいてくれる。それが、どれだけ大きな心の支えになるでしょうか。ぜひ最初の一歩を踏み出してみてください。



誌上講座 [第3回]

男女共同参画の視点から考える災害と防災／復興

■ 地域と自治体の防災力を高めるために～多様な主体の参画・連携を

熊本地震でも避難生活で命を落とす関連死に認定された方が200人を超えたが、(男女問わず)衛生・栄養・育児・介護などの暮らしに関わる知識・経験をもっている、ケア役割を担う人自身の困難状況にも共感でき目配りが効く、そうした防災人材の育成や地域リーダー層・自治体管理職層への登用が、いかに重要なが改めて突きつけられたと言つてもよいでしょう。また、障がい者・慢性疾患者・乳幼児世帯など、多様なニーズをもつ当事者の意見を取り入れることも不可欠です。

● 男女共同参画・多様性配慮の視点を防災対策に取り入れることの意義

多岐にわたりますが、ここでは被災者支援と地域防災力の視点から3点に絞りました。

① 被災者支援の質の向上

性別によりニーズは大きく違います。決して良いことでありますんが、日々の家庭生活のマネジメントは女性が担っているケースが圧倒的に多いのも現実です。そのため、女性たちのニーズをどれだけしっかり掘り起こし把握できるかが、被災者支援の質全体に大きく影響すると言えるでしょう。

② 避難誘導・要配慮者支援

現状では育児・介護・看護を担う人の多くが女性であり、また、平日昼間は女性の方が地域にいる割合が高い、という実態に即した形で避難計画の策定や避難(所)生活支援に多様な世代・立場の女性も参画するようにしなければ、高齢者・障がい者・妊娠婦・乳幼児・傷病者・外国人などの要配慮者についても、実効性のある体制や支援にはつながらないでしょう。要配慮者も障がいの種類や性別で支援ニーズが異なりますので、当事者参加も不可欠です。

③ 地域防災活動の活性化

急速な高齢化と共に一世代の地域組織離れて、地域では「老々防災」化が進んでいるといつても過言ではありませんが、女性や若者もリーダーとして活躍できる雰囲気を持った地域組織は少数派ではないでしょうか。また、ライフスタイル・働き方・価値観の多様化が進む中において、地域住民の関心や参加を維持することは容易ではなく、組織のあり方や会合の持ち方・訓練方法・テーマも工夫していく必要があります。家庭や仕事で忙しい女性が参加しやすい活動環境づくりは、①②の課題の改善とともに、仕事で忙しい若手の参加のしやすさにもつながるでしょう。

● 事例から考える取り組みの方向性

自治体の防災会議の委員に占める女性割合は、上昇傾向にあるとはいえ、まだ高いとは言えません(平成28年4月1日現



減災と男女共同参画
研修推進センター 共同代表
あさの さちこ
浅野 幸子



阪神・淡路大震災に際して学生ボランティアから国際協力NGOのスタッフとなり、復興支援などに4年間従事。2011年6月に発足した東日本大震災女性支援ネットワークの活動に参加。2014年4月より、現職。早稲田大学地域社会と危機管理研究所招聘研究員、専修大学非常勤講師。また、防災講演などを各地で行っています。

講座・講演会報告

2017年度 女性への暴力ゼロ運動特別講座

平成29年11月4日(土) 10:00~16:20 ムープ5階 大セミナールーム

[第1部] DV問題を考える「若者の性を守ろう！」

《講演》DVの今を知る 【講師】弁護士 角田由紀子さん

《講演》AV出演強要・JKビジネスの彼女たち 【講師】ポルノ被害と性暴力を考える会 世話人 宮本節子さん

[第2部] デートDV予防教育ファシリテーター・フォローアップ講座

《講演》デートDVって何？

～若者のデートにひそむ「力と支配」～

【講師】弁護士 角田由紀子さん



【講師】弁護士



【講師】ポルノ被害と性暴力を考える会 世話人
宮本節子さん

★パープル・ライトアップ★

平成29年11月12日(日)~25日(土) 17:30~21:30



今年度は第1部として、「DVの今を知る」「AV出演強要・JKビジネスの彼女たち」というテーマで講師の先生方にお話をいただきました。参加してくださった皆さまはとても熱心に聴講され、もう少し一人ずつの講師の方のお話をじっくり聞きたかったという感想が多く寄せられました。

また、第2部ではデートDV予防教育ファシリテーター・フォローアップ講座を行い、実際に活動をしている団体の方々にも参加していただきグループ討議を行いました。活動内容と現状の課題をそれぞれお互いに聞くことで、次につながることができるとの感想をいただきました。角田さん・宮本さんからも講評をいただきスキルアップの機会になったこと思います。

1日を通しての特別講座でしたが、最後までたくさんの方に参加していただきました。女性への暴力ゼロ運動として大変有意義な1日でした。

おとこのライフセミナー

姜尚中氏講演会

「理想の男女、理想の夫婦」

平成29年10月7日(土) 13:30~15:00 ムープ2階ホール

毎年、さまざまな分野で活躍されている男性講師を招いて、ご自身の体験や生き方などをご講演いただく「おとこのライフセミナー」。今年度は、政治学者であり、東京理科大学特命教授、出身地の熊本県立劇場館長兼理事長である姜尚中さんをお迎えし、ご講演いただきました。

来場者からは、「心地良い話し方で、とてもわかりやすかった」という感想が多く、「深く感銘し、大変参考になった」「貴重なテーマだった」という声も寄せられました。



【講師】政治学者
カン サンジョン
姜 尚中さん